



保存版

Racing Specialities



FIM RACING  
HOMOLOGATED  
HELMET

# RX-7X FIM RACING #1

## 取扱説明書

ご使用前に必ず本書をお読みください

本書はヘルメットの使用方法、お手入れ方法、使用上の注意を説明しています。正しくご使用していただきため、最後までよくお読みください。また、本書はいつでも読み返せるよう、大切に保管してください。万一、本書を紛失された場合は、弊社『品質管理課』までお問い合わせください。製品の改良などにより、お客様に予告なく仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。



本書の各図記号は以下のような意味を表しています



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

本製品は日本国内仕様です。国外では使用しないでください。尚、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており、日本国内仕様である本製品は適合していません。

# 安全のため、守っていただきたいこと。

このたびアライヘルメットをお求めくださいましたことを、心より感謝いたします。私共は日本で最も長い歴史を誇るヘルメットメーカーとしてその歴史に恥じぬヘルメットを作り、より多くの方々の安全を守る為に努力しております。しかし、私共が努力して作った製品といえども、いかなる事故にも絶対という訳ではありません。ヘルメットは万一の際に危険の度合を減らす装備の一つであり、安全の一要素にすぎません。ヘルメットの着用に際しては以下の注意事項をよくご理解いただき、常に安全を心がけて運転されますよう、お願ひいたします。

## ▼ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。

安全のためには、「自分の頭にピッタリ合ったサイズのヘルメットをかぶる」ということがとても大切です。緩すぎたりキツすぎたりしてヘルメットのサイズが自分の頭に合ってないと、ヘルメットは安全性能を十分に発揮することができません。下記の「試着のポイント」を参考にヘルメットをお選びください。



- ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。ヘルメットは同じサイズ表示であっても、オープンフェイスやフルフェイス等タイプが異なると、かぶった際のフィット感も異なります。
- ヘルメットをかぶった状態で頭を前後左右に振っても、頭の動きに対してヘルメットがワンテンポ遅れずにしっかりと追従すること。
- ウレタン素材等の進歩によって、「少しきつめを選んでおけば、使っているうちに馴染んで緩くなる！」といった事は、最近ではあまり期待できません。サイズ選びの際にはヘルメットをかぶった際の内装のフィット感が全体的に均一であり、尚且つ頭部に部分的な締め付けや圧迫などを感じないサイズのヘルメットをお選びください。



## ▼あご紐は正しく締めてください。

転倒した際、頭に受ける衝撃の方向は予想することができません。ある時はヘルメットを脱がすような方向から衝撃が来るかもしれません。そんな時、ヘルメットを頭にしっかりと固定しておくのがあご紐の役目です。ヘルメットをかぶっていても、あご紐を正しく締めていなければヘルメットをかぶらない状態と同じです。ヘルメットをかぶる時には必ずあご紐を正しく締めてください。



## ▼ヘルメットの持ち運びには注意！

ヘルメットホルダーにヘルメットを吊り下げたまま走行すると、ヘルメットと車体との干渉により車体可動部の動きを妨げるおそれがあります。そして、ヘルメット本体や、車体とヘルメットを繋いでいるあご紐も傷つけるおそれがあります。また、ヘルメットを持ち運ぶためにヘルメットの窓に腕を通したり、あご紐で腕に吊り下げて運転するのもオートバイの操縦に支障をきたしますので絶対におやめください。



## ▼あご紐（ストラップ）のコンディションにご注意ください。

あご紐は安全の要です。短くて硬いアゴ髭と長時間接触したり、路面等の硬いものと擦れたり、ライディングジャケット等の襟部分の面ファスナーなどに触れると繊維が徐々に千切れであご紐に毛羽立ちが生じます。あご紐に毛羽立ちやほつれを発見した場合は、あご紐の修理を弊社品質管理課までご依頼ください。※あご紐の修理代金とヘルメットの往復送料は、お客様のご負担となります。



あご紐が毛羽立ったままでヘルメットを使い続けると、ほつれが進行してあご紐が次第につれて（ひきつって）変形してしまいます。変形したあご紐では装着時の締め付けが不十分だったり、衝撃を受けた際にDリングから抜けるおそれがあり大変危険です。

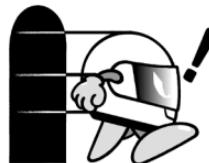
## ▼走行条件に合ったシールドをお選びください。※シールドを装備したヘルメットに限ります。

周りが暗くなってきたにも関わらずスマートシールドのままで走行すると、視界が悪化し状況判断し難くなり大変危険です。長距離ツーリングなどで夜間も走行する場合は、光線透過率が70%以上のライヘルメット純正クリアーシールドに交換してください。尚、外したシールドは傷を付けないようにご注意ください。



## ▼走行中の急激な環境変化に注意する。※シールドを装備したヘルメットに限ります。

走行時におけるヘルメット内の温度は、ほぼ一定ですが、ライダーは高速度で移動しているため周辺環境（気温・湿度）は常に変化しています。そのため、峠道などの高低差が生じる道路、または突然の雨やトンネルに入った（出た）瞬間、ヘルメット内部と周辺環境の急激な温度変化により、シールド面（外面か内面かは状況によって変わります）に結露（露付き現象）が発生し、急激に曇ってしまう場合があります。このような状況が予想される時にはシールドを微開にしておき、予めシールド内外の温度差を少なくしたり、安全を確保できる走行スピードに調節するなどの注意が必要です。



## ▼ヘルメットを塗装する際の注意。

ヘルメットを塗装する際は、以下の点にご注意ください。まず、ヘルメットの表面を食器洗い用中性洗剤で洗い、汚れや油分を落としてから800番程度のサンドペーパーで表面を研磨します。尚、ヘルメット内の衝撃吸収ライナ（発泡スチロール製）は塗料に含まれる溶剤によって溶けてしまい衝撃吸収性が失われてしましますので、塗料が染み込まないように入念にマスキングしてください。ヘリ部分、ホック類、ネジ孔なども同様にマスキングして、ご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装を行ってください。但し、乾燥時に50℃以上の熱を必要とする塗料はご使用できませんのでご注意ください。尚、ホルダーやダクト等の樹脂成型パーツの塗装は、必ずポリカーボネート樹脂用の塗料と溶剤をご使用ください。



## ▼ヘルメットの高温乾燥は厳禁！

ヘルメットを50℃以上の熱に曝すと素材に変形や変質が生じ、ヘルメットの性能を大きく損ないます。ヘルメット全体、または取り外した内装を、業務用乾燥機・ドライヤー・ストーブ・各種ヒーター類・電子レンジ・オーブン・各種バーナー、トーチ類・直火などで絶対に乾かさないでください。また、衣類乾燥機、洗濯乾燥機による内装の乾燥も、その乾燥温度が50℃以上に達する場合は使用をお止めください。



## ▼ヘルメットの改造は厳禁！

ヘルメットの基本構造は頭を何らかの物質と空間で覆い、頭を保護するものです。安全性を高める為には、より多くの物質、空間が必要となり、したがって安全性の代償として僅かとはいえ視界・聴力・運動性が損なわれる可能性があります。例えば、ヘルメットをかぶると音が聞こえにくく感じる例があげられます。これは周波数の高い音がクッション材などによって吸収されることによって音質が変化するためで、通常の会話などの周波数音はほとんど吸収されません。このことをご理解いただければ、ご支障なく運転ができます。また、帽体に聴音孔をあけると衝撃吸収性能が低下するだけでなく、かえって風切音が大きくなり聴力を妨げる原因となります。メーカーに相談せず帽体や発泡スチロールに孔をあけたり、削ったりするのはおやめください。



## ▼衝撃を受けたヘルメットは再使用できません！

ヘルメットは衝撃を受けると、その一部が壊れることで衝撃を吸収して頭を守るように作られています。したがって、かぶった状態で衝撃を受けたヘルメットは、例え表面に大きなキズ等が見られなくても衝撃吸収のプロセスによって内部構造が破壊されています。一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットは継続して使用せず、弊社品質管理課まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送り頂き、再使用可能かどうか検査を依頼されるか、新しいヘルメットをご購入ください。※ヘルメットの検査自体は無料です。ヘルメットの往復送料のみ、お客様のご負担となります。



## ▼走行時のヘルメット操作は危険！

オートバイで走行中、シャッターの開閉等の操作を行うにはハンドルから一時的に手を離さなければならず、その結果オートバイの運転に支障をきたすおそれがあります。ヘルメットの操作は停車時に行ってください。但し、シールドやサンバイザーの開閉は視界の確保などに必要なので、この限りではありません。



## ▼ヘルメットをミラーに引っ掛けないで！

バックミラーにヘルメットをかけると、ミラーの角でシールドが傷付いたり、衝撃吸収ライナが変形するおそれがあり、変形したライナは衝撃吸収能力に少なからず影響を及ぼします。また、ヘルメットの上に腰掛けるのも厳禁です。ヘルメット裾部のエッジモールを傷付け、それをきっかけにエッジモールが剥がれたり、削れたりしてヘルメット裾部が露出するおそれがあります。帽体の裾部は硬いので、それを保護しているエッジモールが無いと転倒時に首や肩など身体を傷つけるおそれがあります。



## ▼長期間ご使用の場合は樹脂成型パーツの点検及び交換を行ってください。

ヘルメットに使用されている樹脂成型パーツ類は、日々の使用による可動部の磨耗や紫外線による素材劣化が生じます。不意の破損を防ぐために定期的な点検を行ってください。特にシールドベースやそれを取り付けるためのネジ、ホルダーやワッシャー類などはとても重要なパーツですので、亀裂や磨耗、破損を発見した場合は、パーツの交換を早急に行ってください。



## ▼ヘルメットの性能は永久不变ではありません。

ヘルメットは日々の着用に伴い、ヘルメットを構成する素材の老朽、劣化などの経時変化によって、新品時と同じ性能を維持できなくなる場合があります。現在ご使用中のヘルメットに特に不具合が見られなくても、SGマーク※の有効期限である三年を目安に、そのヘルメットの着用を開始した日から数えて三年以上経過したヘルメットは買い替えをお勧めします。※（一財）製品安全協会のSG被害者救済制度



## ▼ヘルメットを不安定な場所に置かないで！

オートバイのタンクやシート上など平面でない滑りやすい場所にヘルメットを置くと、ヘルメットが落下するおそれがあります。ヘルメットは中身が空っぽの状態で1m以下からの落下であれば、性能に大きくは影響しませんが※、落下時にヘルメットの部品が破損した場合、そのまま使用すると走行中に部品が外れたりするおそれがあります。部品が破損した時には、速やかに新しい部品と交換してください。



※例え1m以下からの落下であっても、同一箇所に複数回衝撃が加わった場合はヘルメットの性能が損なわれます。

## ▼ペットの近くにヘルメットを置かないで！

ペットの活動範囲にヘルメットを置かないようにご注意ください。ペットがヘルメットをおもちゃにして、噛んだり、転がしたり、引きずり回したりする場合があります。また、齧歯類の場合には内装生地やウレタン製のクッション材を巣作り（寝床）の材料にするために齧り取ったりしてヘルメットを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットから外れた部品などをペットが誤飲するおそれもありますので十分ご注意ください。



## ▼ヘルメットの製造年月日について

ヘルメット内面に貼られる検査ラベルに最終検査を行った日付が、そのヘルメットの製造年月日としてスタンプされています。尚、ヘルメットに付属の印刷物（シールドラベルや取扱説明書など）に表示される数列等は印刷物の管理コードであり、ヘルメットの製造年月日とは関係ありません。



## ▼偏光レンズを使用したサングラス・保護メガネ等のご使用について

シールドは、ポリカーボネイト樹脂を原料とする「金型射出成形」と「平板の熱曲げ」の二種類の製造方法があります。しかし、いずれの方法においても成形時に少なからず残留応力が発生します。その残留応力によるシールドの分子量の変化が偏光レンズによって虹色の模様となり、シールド越しの風景が見え辛くなります。この事をご理解いただき、偏光レンズの使用はお控えください。

## ▼ベンチレーションダクトについて

- ベンチレーションダクトは両面テープやネジでヘルメットに固定されています。無理に外そうとすると、ヘルメット本体やベンチレーションダクトが破損するおそれがあります。
- トップケース等ケース類にヘルメットを収納する際は、ケース内部（特に天井部）とヘルメットとの間に隙間があるかどうか確認を行ってください。この隙間が十分確保されていない場合、ケースの蓋を強く閉じた際にヘルメットに打撃が加わりベンチレーションダクトを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットを取り出すきっかけとしてダクトの開口部などに指をかけないでください。
- 暑い日にケース類にヘルメットを長時間収納すると、内部温度の上昇によってベンチレーションダクトを固定する両面テープの接着力が低下して、ズレや剥がれが生じるおそれがあります。また、ヘルメットの収納部がマフラーに近い場合も内部温度の上昇によって同様のトラブルが生じるおそれがあります。

## ▼つや消し塗装のヘルメットについて

- つや消し塗装のヘルメットのお手入れに、アルコール・ガソリン・ベンジン・灯油・シンナー系の溶剤等は絶対に使用しないでください。付着した汚れは水やぬるま湯を少量含ませた軟らかい布で拭き取ってください。この時に表面を強くこすると部分的なつやが生じてしましますのでご注意ください。もし汚れが落ちない場合は、中性タイプの台所用洗剤を水で薄めてご使用ください。
- つや消し塗装面を消しゴムで強くこすると、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。また、コンパウンド（研磨剤）や、コンパウンドを含むワックス等でヘルメット表面を磨くと、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。
- つや消し塗装の性質上、各種塗料・インク・ボールペン・油性 / 水性マーカーなどが付着した場合、きれいに落とす事ができません。付着させないように十分ご注意ください。

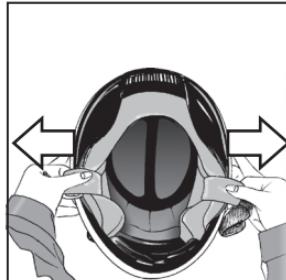
## ▼エマージェンシータブについて

エマージェンシータブとは、救護者が傷病者のヘルメットを脱帽させる前段階として、脱帽時の抵抗となる頬パッドの除去をスムーズに行うことを目的としたシステムです。救護者は、頬パッドのカバー等に縫い付けられた目印（E T ポイントラベル）で傷病者の着用するヘルメットがエマージェンシータブに対応している事を認識できます。



エマージェンシータブによる頬パッドの除去は、当システムを十分に理解した上で、ヘルメット脱帽の訓練を経験した救護者によって行ってください。尚、事故状況や傷病者の状態によっては、エマージェンシータブが頬パッドの取り外しを確実に行なう有効な手段とならない場合があります。

## FCSを採用したヘルメットのかぶり方



FCSは頬パッドが下まで回りこんでいるため間口が狭くなっています。あご紐をしっかりと持って左右に広げると間口が広がり、ヘルメットがかぶりやすくなります。

※ヘルメットを脱ぐときも同様に、あご紐を左右に広げると脱ぎやすくなります。



ヘルメットは真上からではなく、額から先にかぶります。このようにする事で前髪が目の前に垂れ下がりにくくなり、同時に耳たぶの折れも防げます。



天井パッドが頭に触れるまであご紐を下に引っぱり、ヘルメットの位置を整えます。最後に、あご紐を締めればヘルメットの装着完了です。

# RX-7X FIM Racing #1 の特長

FIM Racing Homologation Program が開始されたことにより、FIM 世界選手権サーキットレース及びそれに準ずる競技において FIM 承認を受けたヘルメットが義務化されました。そこで生まれた生粋のレーシングモデル、それが RX-7X FIM Racing #1 です。

## Peripherally Belted - SNC<sup>2</sup>

PB - SNC の成形用樹脂を大幅に見なおした PB - SNC<sup>2</sup>。その前頭部は、窓カットと並列に配されたスーパーファイバーベルトによって強化され、サイドからリヤにかけてスーパーファイバクロスで補強を行い、帽体全体での剛性を高めています。

## マウスシャッター

フリーフローシステムモードとデフロストモードの二つの機能を併せ持つマウスシャッターを採用。

## ブローベンチレーション

ブローベンチレーションダクトから取り入れられた外気は、ヘルメット内部へと導かれる。

## ICダクト3

ヘルメット中央に配置された ICダクト3 は、外気をヘルメット内部へと導く。

## ディフューザー・タイプ12

レースからのフィードバックによる、全長が長くなったディフューザー・タイプ12を採用。そして、スイッチの大型化によって操作性も向上。

## 固定式エアロフラップ

高速走行時のヘルメット下部を流れる空気を整えて、ヘルメットを安定させる。

## VAS-Vロック

フォーミュラカー用ヘルメット【GP - 6】で採用された、レバーによる強固なシールドロックシステムをベースとした VAS-Vロック は、衝撃によるシールドの不意の開放を可能な限り防ぎます。

## EPフルシステム内装

海外市場で高い評価を受けているアライの固定内装の優れたかぶり心地を着脱式内装でも再現すべく開発されたフルシステム内装は、長時間の走行でも違和感のない心地良いフィッティングを実現。

## FCS構造システムパッド

FCSを取り入れたシステムパッドは、ウレタンパッドを支える【バックプレート】の持つスプリング効果によってアゴ下まで包み込むことで深いかぶり心地を与えます。また、このプレートの変形作用によってヘルメットの着脱もスムーズに行うことができます。



**FIM RACING  
HOMOLOGATED  
HELMET**



- ① ICダクト3  
 ② ディフューザー・タイプ12  
 ③ RX-7Xレーシング・spoイラー  
 ④ サイドダクト  
 ⑤ VAS-Vロック  
 ⑥ マウスシャッター  
 ⑦ プローベンチレーション



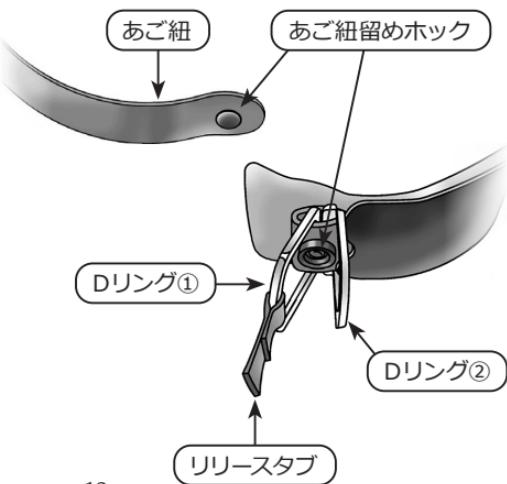
- ⑧ システムパッド  
 ⑨ システム内装  
 ⑩ ストラップカバー  
 ⑪ システムネック

目 次		ページ
安全のために守って頂きたいこと		2 ~ 9
A	あご紐の正しい締め方	12 ~ 13
B	デミストポジションについて	14
C	シールドの開閉	15
D	プローシャッターの操作	16
E	マウスシャッターの操作	
F	ICダクト3の操作	17
G	DFIインテークの操作	
H	シールドの着脱	20 ~ 23
I	シールドベースの着脱	24
J	ストリングの着脱	26
K	XDディフレクターの着脱	27
L	システムパッドの着脱	28 ~ 29
M	パッドカバーの着脱	30 ~ 31
N	ヘルメットのサイズ调节	33
O	システム内装の着脱	34
P	システムネックの着脱	36 ~ 37
Q	ストラップカバーの着脱	38 ~ 39
R	ヘルメットのお手入れ	40 ~ 41
S	オプションパーツリスト	42 ~ 43

## A あご紐の正しい締め方

あご紐を正しく締めていない場合、万一の際にヘルメットの安全装備としての機能が十分に発揮できません。当ページを良くお読みになり、あご紐を正しくご理解いただきますよう、お願ひいたします。

### あご紐の各部名称

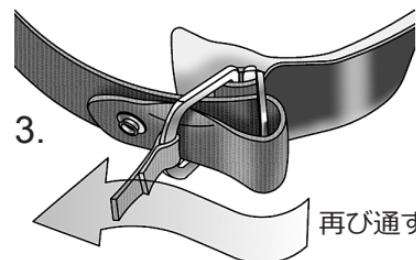
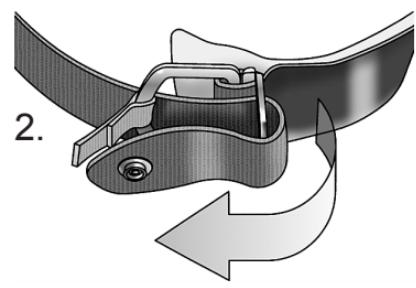
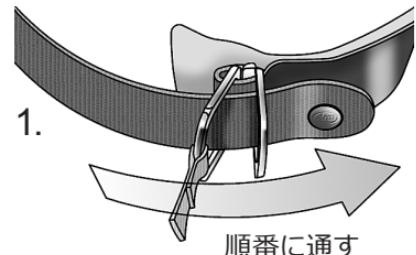


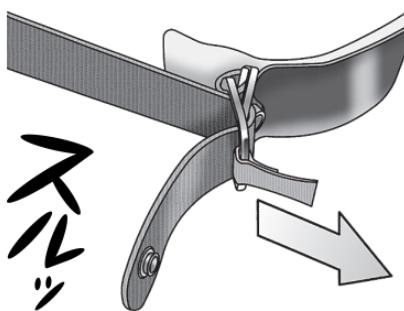
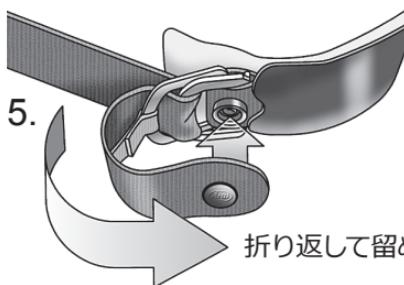
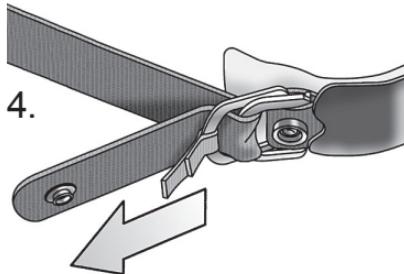
1. 二つのDリングに通す  
あご紐を、Dリング①→Dリング②の順に通します。  
※あご紐を通す際には、途中でねじれさせないようにご注意ください。

2. あご紐を180°折り返す  
二つのDリングにあご紐を通したら、あご紐の先端を軽く引っぱってゆるみを取り除きながら180°折り返します。

3. Dリング①に再び通す  
折り返したあご紐の先端を、Dリング①に通します。

**危険**  
あご紐を正しく締めていない場合、転倒時の衝撃でヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。





#### 4. あご紐を引っぱる

あご紐の先端部を持って矢印の方向に引っぱると、あご紐が締まります。

あご下とあご紐の間に指を1~2本差し入れて襟元を直すように左右に動かしても、指の背が常にあごに触れる位が適切な締め具合です。

※人差し指と中指の一番太いところが直径2cm未満の方は指二本で、それ以上の方は、人差し指一本で確認しましょう。



#### 5. 余った先端部を留める

余ったあご紐の先端を【あご紐留めホック】で留めることで、あご紐の風によるバタ付きや、襟元の面ファスナーへの付着を防止できます。

あご紐が乗車服やレインウェアなどの襟元の面ファスナーに付着すると後方確認の際に首の動きを妨げるおそれがあります。また、あご紐が面ファスナーへ付着すると毛羽立ちの原因になります。



#### リリースタブの使い方

【あご紐留めホック】を外し、リリースタブを摘んで矢印の方向に引っぱると、あご紐を簡単に緩めることができます。



あご紐を【あご紐留めホック】で留めただけの状態であご紐を持たないでください。  
【あご紐留めホック】が外れてヘルメットが落下して破損させるおそれがあります。



## VAS-Vロックについて

VAS-Vシールドは、四輪用ヘルメットのGP-6で採用されたレバーによる強固なシールドロックシステムをベースとしたVAS-Vロックによってシールドがロックされ、外圧や衝撃による不意のシールド開放を可能な限り防ぎます。

### VAS-Vロック各部名称

- ①Vロックレバー
- ②Vロックベース
- ③シールド
- ④シールドの指かけ



## B デミストポジションについて

シールドロックからデミストポジションへ

[Vロックレバー]前方を親指の腹で押し上げると、シールドロックが解除され、シールドが少し開いて隙間が生じます。

この状態を【デミストポジション】と呼称し、隙間から入り込む外気はシールドの曇りを軽減します。



デミストポジションからシールドロックへ

[シールドの指かけ] の上に指をかけてデミストポジションから更にシールドを下げる、シールドを確実にロックさせてください。

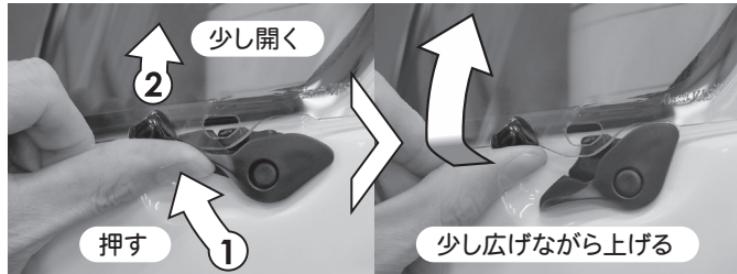


## C シールドの開閉

シールドの開き方（シールドロックの解除）

[Vロックレバー]前方を親指の腹で押し上げるとシールドロックが解除され、シールドは一旦デミストポジションに移動します。

次に、[シールドの指かけ] の下に指を移し、**少し外側に広げながら**シールドを上げます。



シールドの閉じ方（シールドロックの方法）

シールドを閉じる際は、先ずデミストポジションまでシールドを下げます。

次に、[シールドの指かけ] の上に指をかけて**デミストポジションから更にシールドを下げ**、シールドを確実にロックさせてください。



Image



シールドのロックが不完全な状態で走行すると、風などの外圧によってシールドが不意に開いてしまい危険です。



Vロックレバーは絶対に下向きに押さないでください。シールドのロック機構が損なわれるおそれがあります。



Image

## D プローシャッターの操作

プローシャッター中央の膨らみに指をかけ、引き下げるときシャッターが開き、外気がヘルメット内に流入します。

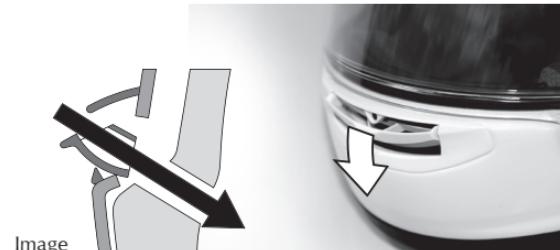


プローシャッター中央の膨らみを押し上げるとシャッターが閉じ、外気の流入は止まります。

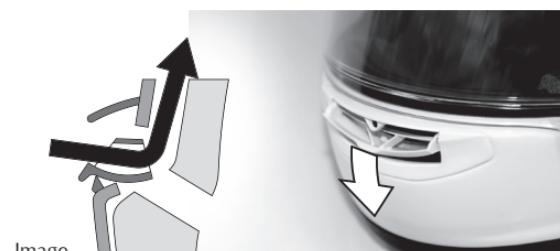


## E マウスシャッターの操作

シャッター上部中央に指をかけ、1段引き下げるとき【半開】となり、流れ込む外気は口元へと向かいます。



シャッターをもう1段引き下げるとき【全開】となり、流れ込む外気はシールド内面に導かれてシールドの曇りを軽減します。



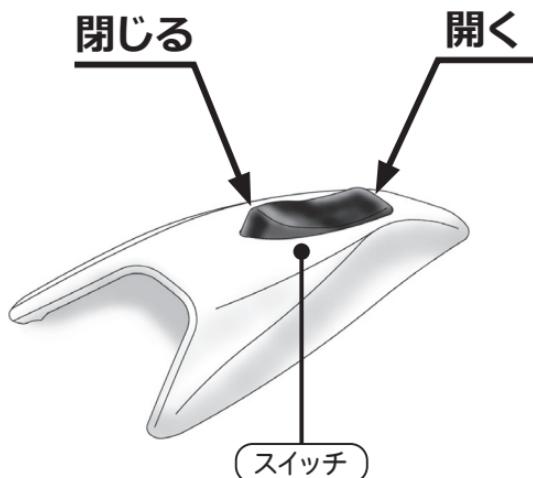
雨天時は、吸気側にあたるダクト類のシャッターを全て閉じてヘルメットをご使用ください。尚、シャッターを閉じても水や空気を完全には遮断できませんので、予めご了承ください。



Attention

## F ICダクト3の操作

ダクト背面のスイッチの後方（ヘルメットの前後に準じます）を押すとシャッターが開き、外気がヘルメット内に流入します。スイッチの前方を押すとシャッターが閉じ、外気の流入は止まります。



雨天時は、吸気側にあたるダクト類のシャッターを全て閉じてヘルメットをご使用ください。尚、シャッターを閉じても水や空気を完全には遮断できませんので、予めご了承ください。



## G DFIインテークの操作

ディフューザーシステム・タイプ12の、前方吸気口がDFIインテークです。

インテーク部のスライドスイッチの突起を後方に（ヘルメットの前後に準じます）スライドさせるとシャッターが開きます。突起を前方にスライドさせるとシャッターが閉じます。



## RX-7Xレーシング・スパイラーに関するご注意



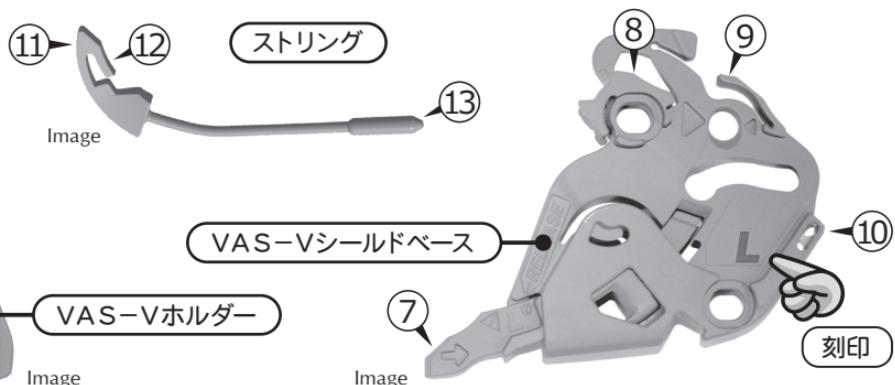
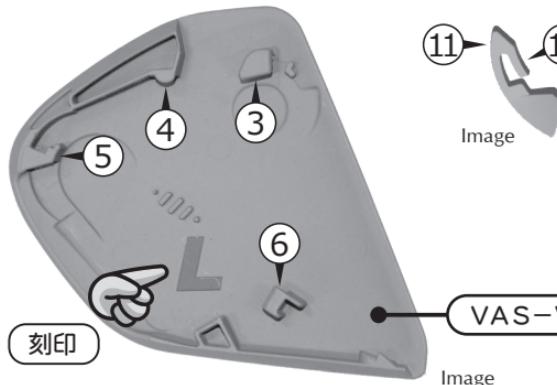
RX-7Xレーシング・スパイラーには絶対に塗装を行わないでください。塗装を行うと素材が脆弱になり、加わった外圧によってRX-7Xレーシング・スパイラーが破損します。



RX-7Xレーシング・スパイラーがヘルメットに装着された状態だとオートバイのヘルメット収納スペース及び、ヘルメット一個用のトップケースには収納できなくなる場合があります。予めご了承ください。

## VAS-V構成パーツの各部名称

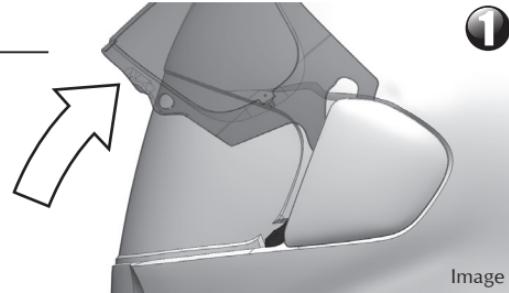
VAS-Vシールド	1	滑動穴 (物が滑って動く穴)
	2	シールドピン
VAS-Vホルダー (L・左側)	3	上部フック (前)
	4	上部フック (後)
	5	ストリング用マウント
	6	下部フック
	7	VAS-Vリリースレバー
	8	上部フック受け (前)
VAS-V シールドベース (L・左側)	9	上部フック受け (後)
	10	ストリング用マウント
	11	フック
ストリング	12	返し
	13	アンカー



## H シールドの着脱

### シールドの外し方

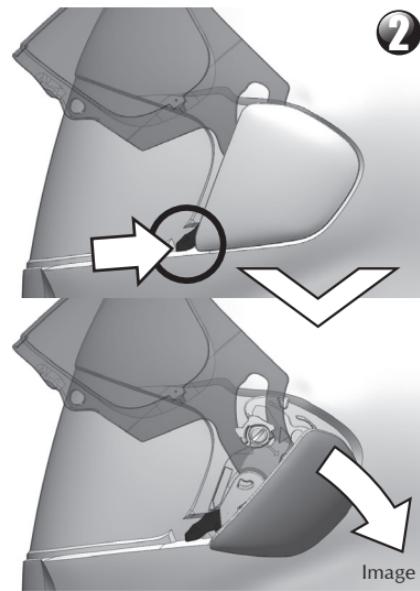
①シールドを開いて全開にします。※図ではVロックレバーが省略されています。



②ホルダーの前方に見える【VAS-Vリリースレバー】を、刻印された矢印の方向に押し込みます。すると、ホルダーのロックが解除されてホルダーが外れます。

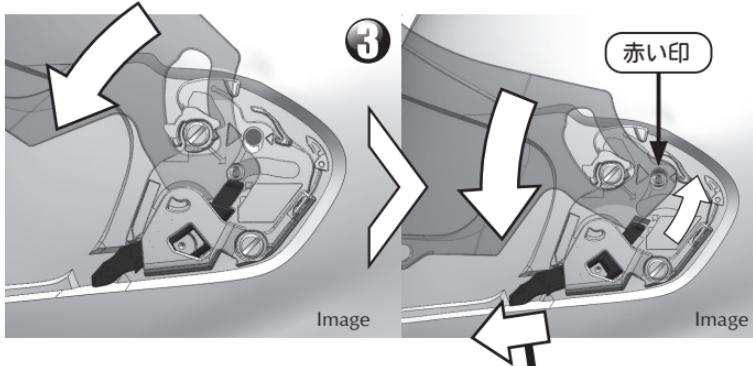


ホルダーとシールドベースは、落下防止用のストリングで繋がっています。

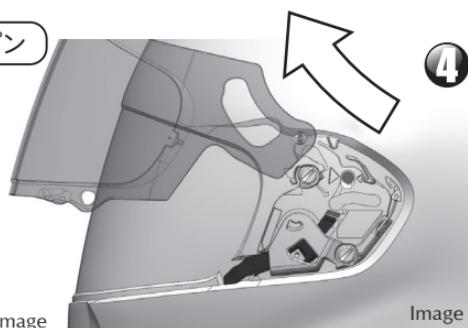


③ VAS-Vリリースレバーが押し込まれた状態でシールドを下げるとき、シールドは通常の開閉とは異なる動きをします。シールドピンがシールドベースに設けられたガイドレール（～の形をした溝）から離脱して、シールドベースから覗く赤い印の位置に移動します。その際、VAS-Vリリースレバーは元の位置に戻ります。

※ストリングで繋がったホルダーは省略しています。

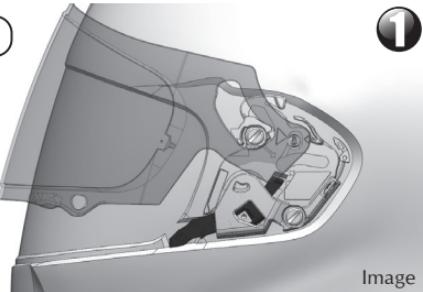
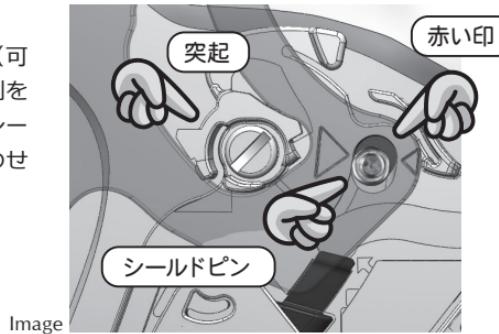


④ この時シールドは、シールドベース側に一箇所のフックで留められているだけなので、シールドを後方からめくることでシールドベースから簡単に取り外すことができます。反対側も同様の手順で取り外しを行いますが、既に取り外しを行った側のシールドピンがヘルメットに接触しないようご注意ください。



## シールドの付け方

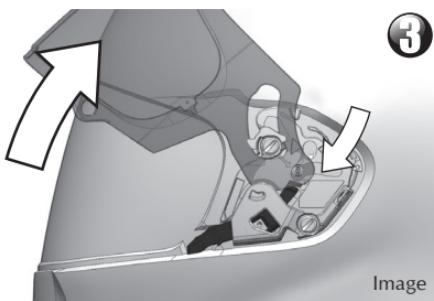
①シールドベースに設けられた突起（可変軸受け）にシールドの摺動穴の下側を合わせます。そして、シールドピンをシールドベースから覗く赤い印に重ね合わせます。



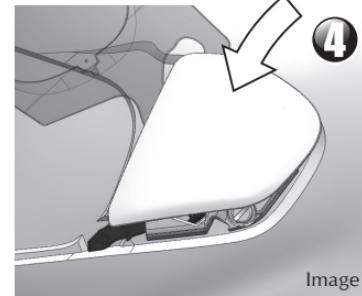
②フック部分のシールドを上から押して、フックの下に入り込みます。



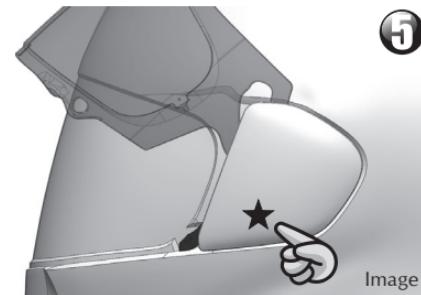
※ストリングで繋がったホルダーは省略しています。



④ホルダーの上部二カ所のフックを、シールドベースの上部の溝に引っかけます。

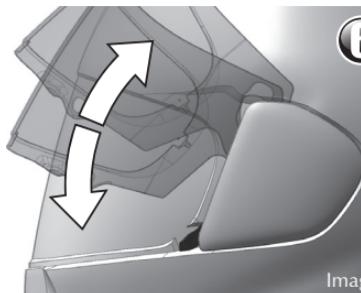


⑤ホルダーの外周とヘルメットの段差の形を合わせ、★印付近を押してホルダーをロックさせます。この部分の裏側には下部フックが設けられています。



⑥反対側も同様の手順で取り付けを行ってください。  
最後にシールドを数回上下させ、正しく取り付けられているかどうか確認を行います。

シールドやホルダーの取り付けが不完全な場合、走行中に外れるおそれがあります。必ず動作確認を行なってから、ヘルメットをご使用ください。



6

アライヘルメットのホームページでは、V A S - V シールドの着脱方法を動画配信しています。

動画配信QRコード



※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。通信料はお客様のご負担となります。予めご了承ください。

4

5

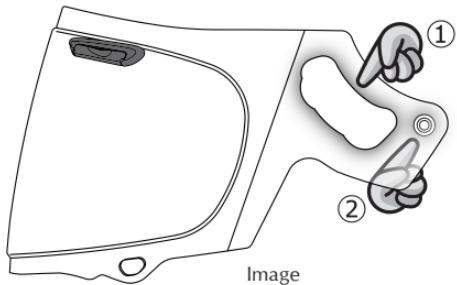
6

23

シールドの動きが渋くスムーズでない場合は

一旦シールドを取り外し、市販の綿棒に潤滑シリコンを少量含ませてシールドの摺動穴周辺①と内側に突き出たシールドピンの軸周り②に塗布します。その後、シールドをヘルメットに取り付けて数回上下に動かして潤滑シリコンを十分に馴染ませてください。

Onepoint  
新品のシールドを取り付ける時にも、潤滑シリコンを塗布してください。



潤滑シリコン

## I シールドベースの着脱

### シールドベースの外し方

シールドベースの二本のネジを、10円硬貨などで左に回して取り外します。

### シールドベースの付け方

シールドベースの左右を刻印で確認し、ネジは初めに手で右に回し、確実にネジ穴に入っていることを確認してから10円硬貨などで軽く回し、止まった位置から**四分の一回転未満**が締める目安です。ネジの締め忘れや締めすぎには十分ご注意ください。



シールドベースの着脱や交換を行ったり、標準装備のシールドとは異なる種類のシールドに付け替えた際、ヘルメットへのシールドのアタリ(密着具合)がきつく、または緩くなってしまう場合があります。そのような時には、次のページでご案内する「シールドベース調整によるフィッティングの最適化」を行なってください。

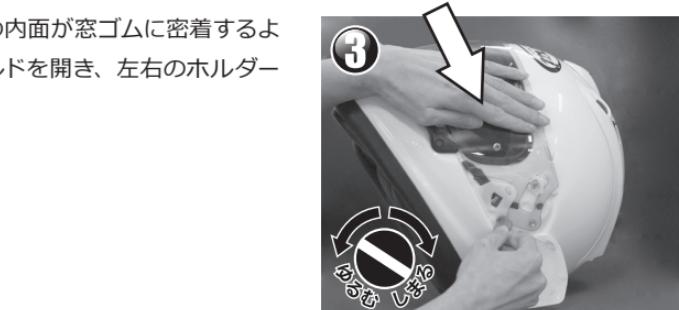
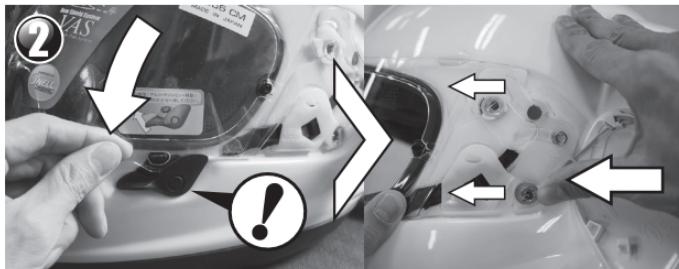
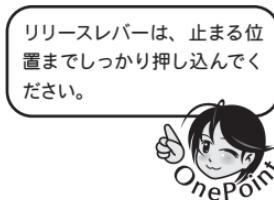


## シールドベース調整によるフィッティングの最適化

①VAS-Vリリースレバーを操作して左右のホルダーを外します。動かしたVAS-Vリリースレバーをリセット（元の位置に戻す）させるため、シールドを一旦シールドベースから外してから再度取り付けます。その後、シールドベースが自由に動かせる程度に10円玉などの硬貨を使って四つのネジを少しだけ緩めます。

②シールド側の指かけに指をかけ、カチッ！と止まる位置（ロック完了位置）まで確実にシールドを引き下げてください。次に、シールドベースがシールドに接するように位置を整えます。止まる位置までシールドベースを前方に押してください。

③シールドを手のひらでシールドベース側に押し、シールドの内面が窓ゴムに密着するようにしてネジを締めます。この作業を左右に行ってからシールドを開き、左右のホルダーを取り付けます。



## J ストリングの着脱

### ホルダー側のフックの外し方

ストリングのフックの返しを爪の先で押しながら引き抜きます。



### ホルダー側のフックの付け方

ストリングのフックを、ホルダーのマウントに奥までさし込みます。



### シールドベース側のアンカーの外し方

ヘルメットから取り外したシールドベースからストリングを全て引き出します。そして、シールドベースの下側に向か90度折るように曲げるとシールドベースから外れます。



### シールドベース側のアンカーの付け方

シールドベース後方の丸穴にストリングのアンカーを裏からさし込んで、シールドベースに設けられた溝に収まるように90度持ち上げます。

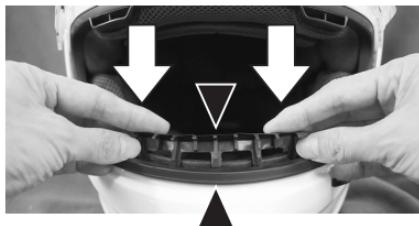


## K XDディフレクターの着脱

ディフレクターは、上部の端をしっかりと掴んで引き上げると取り外すことができます。



ディフレクターは、窓ゴムとセンターパッドとの隙間に差し込みます。ディフレクター中央のフックと、ヘルメットの中心を合わせてフックを奥まで差し込みます。



## L システムパッドの着脱

### システムパッドの取り外し

①システムパッド前方のポケットに差し込まれている【タブ】を抜き取ります。タブは付け根を摘まみ、矢印の方向に引き抜きます。



②次に、システムパッドの前方を掴んでヘルメット後方に向かって押し付けます。すると、システムパッドの前方のロックが解除されるので、システムパッド前方を持ち上げます。

③システムパッドの前方が外れたら、システムパッド全体を掴んで斜め前方に抜き取ります。



## システムパッドの取り付け

- 予め、あご紐をパッド中央の穴に通しておきます。
- ①システムパッドの後方から先にヘルメットにはめ込みます。

②システムパッド前方を、ロックされるまで上から押し付けます。取り付け後、システムパッド前方を上下左右に動かしてもシステムパッドにガタつきが生じなければ問題ありません。

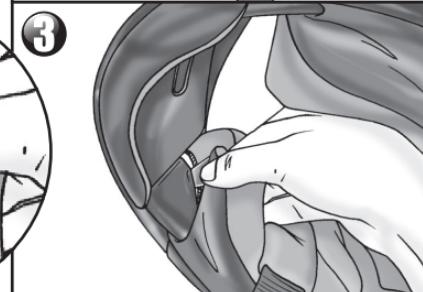
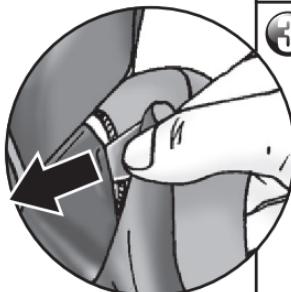
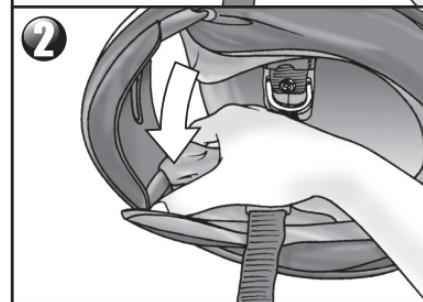
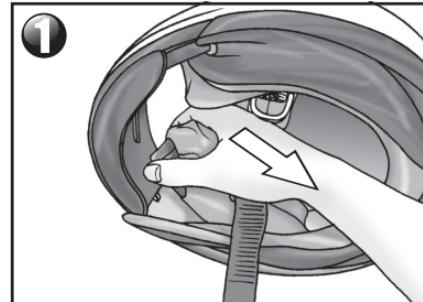
③次に、あご紐を引っ張って弛みを取り除き、システムネックのタブを、システムパッド前方に設けられたポケットに差し込んでください。



システムパッドを装着せずにヘルメットをかぶったり、パッド中央の穴にあご紐を通さないでシステムパッドを取り付けると、あご紐の機能が損なわれて危険です。あご紐をパッド中央の穴に正しく通してシステムパッドを正しく取り付けてヘルメットをご使用ください。



システムネックのタブの取り付けが不充分だと、ヘルメットの着脱時や走行中にタブが外れてしまうおそれがあります。

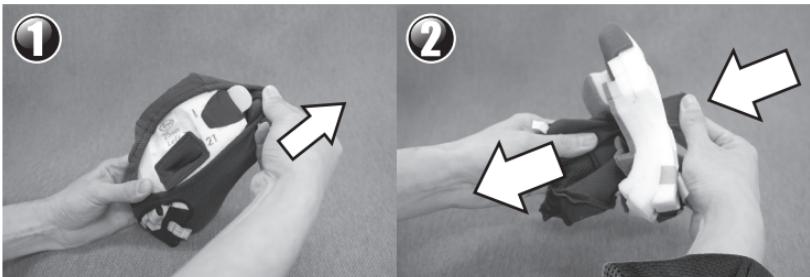


## M パッドカバーの着脱

### パッドカバーの取り外し

①パッド後部の爪の部分よりパッドカバーを外します。

②次に、システムパッド裏面のストッパーを縦にして、パッド本体の中央の穴に通して抜き取ります。



パッド本体は熱や変形に弱い素材で構成されている  
ので、やさしく手洗いしてください。



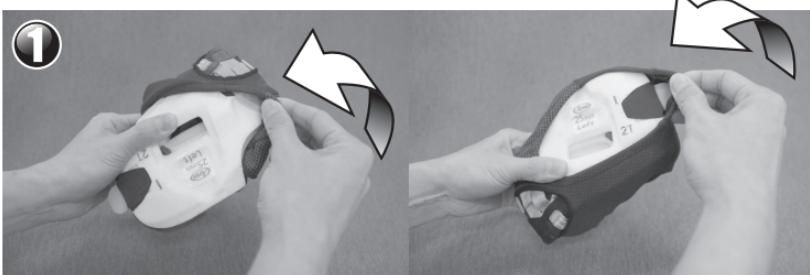
ストッパー

### パッドカバーの取り付け準備

■パッド本体とパッドカバーの左右を確認します。パッド本体とカバーには、左 (Left) 右 (Right) の表示ラベルが付いています。

### パッドカバーの取り付け

①パッド本体に前方から先にカバーをかぶせます。途中パッドを持ち替えてカバーの形を整え、後方の爪までかぶせます。



②パッドカバー前方の穴からパッド本体のツメと角が出るようにカバー位置の調節を行います。

③パッドカバーをかぶせた直後はウレタンフォームの角がパッドカバーに押されて丸まっています。

このままではかぶり心地に影響するので、ウレタンフォームの角を出す作業が必要となります。

ウレタンフォームの角を出すには、パッドの頬にある面の中央の孔に指を入れ、パッドカバーを指先で引っぱり上げます。すると、パッドカバーとウレタンフォームとの間に空間ができ、ウレタンフォームの角が回復します。

④パッドの中央の孔にストッパーを縦向きにして通し、パッド裏面の四角い窪みに收めます。

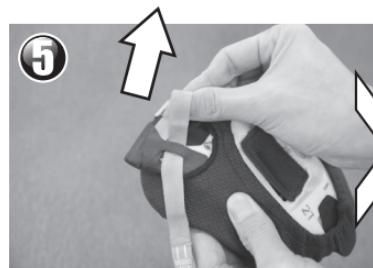
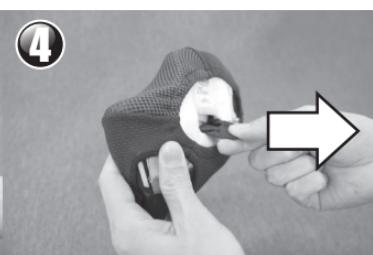
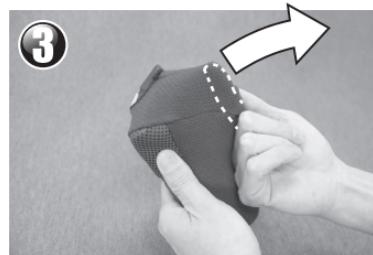
⑤エマージェンシータブが引き出されている場合は、エマージェンシータブを止まる位置まで引っぱり上げます。そして、引っぱってできたループは、パッドカバーの穴に收めます。



エマージェンシータブが周辺物に引っ掛かるおそれがあります。エマージェンシータブを引き出したまま使用するのをお止めください。



このカバー位置が正しくないと、かぶり心地に影響しますので、入念に位置調節を行ってください。



## 調節パッドによるサイズの調節

システムパッドには、容易に剥がして厚み変更ができる【調節パッド】が予め取り付けられています。この調節パッドを取り除くことでパッドの厚みを5mmほど薄くでき、フィット感を緩くすることができます。

### 調節パッドの取り除き方

システムパッドからカバーを外し、一番上に貼られている調節パッドを剥がします。このパッドは本体パッドにストライプ状に部分接着されているので容易に剥がすことができます。

調節パッドを剥がし終えたら、システムパッド本体にパッドカバーをかぶせてください。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくっ付けないようご注意ください。

調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようご注意ください。尚、剥がしたパッドは再利用できません。お住まいの地域の、軟質ポリウレタンフォーム製品の分別ルールにしたがって廃棄してください。



## インカムホールについて

システムパッドからカバーを外し、耳の穴にあたる位置の丸いパッドを剥がすと、ヘルメットスピーカーを取り付けるスペース（インカムホール）ができます。



直径が5cm未満の、薄型タイプのヘルメットスピーカーをご使用ください。



## N ヘルメットサイズの調節

標準装備の内装ではヘルメットがきつい方やゆるい方のため、厚さの異なる内装に替える事で頭周りと頬部のサイズ調節が行えますが、頭周りに関してはヘルメットのサイズによって調節範囲が「ゆるくなる」「きつくなる」のどちらかに限定されます。システム内装とシステムパッドの厚さの異なるオプションが用意されていますが、交換される場合には標準設定をご参照のうえ、お買い求めください。

### システム内装交換による頭周りの調節

システム内装は、右の表のような頭周りのサイズ調節が行えます。お客様がお持ちのヘルメットの標準設定内装をご確認の上、正しいサイズのシステム内装をお買い求めください。

※XLは、システム内装交換による頭周りの調節を行えません。

ヘルメットサイズ	システム内装表示		
XS	II-7mm	II-10mm	
S		II-7mm	II-10mm
M	III-7mm	III-10mm	
L		III-7mm	III-10mm
XL		IV-7mm	
フィット感	ゆるくなる	標準設定	きつくなる

### システムパッド交換による頬部の調節

システムパッドは内部のウレタンパッドの厚みが異なる以外は全て共通で、右の表のようなサイズ調節が行えます。お客様がお持ちのヘルメットの標準設定内装をご確認の上、正しいサイズのシステムパッドをお買い求めください。

ヘルメットサイズ	システムパッド表示		
XS	25 mm	30 mm	
S / M / XL	20 mm	25 mm	30 mm
L	15 mm	20 mm	25 mm
フィット感	ゆるくなる	標準設定	きつくなる

システムパッドの厚さを標準よりも極端に厚くしたり薄くしたりすると、ヘルメットのかぶり心地を大きく損なう場合があります。



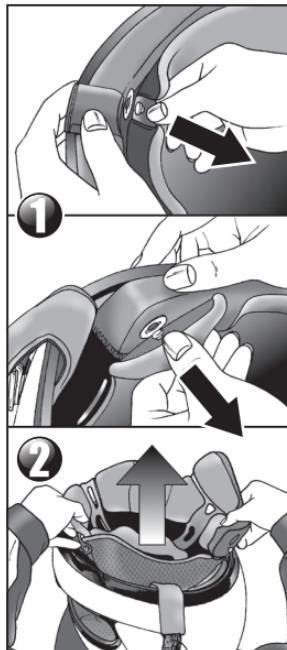
## 0 システム内装の着脱

### 内装の外し方

①システム内装は四つのホックで衝撃吸収ライナの内側に取り付けられています。

それぞれのホックのなるべく近くを持ち、ヘルメットの中心に向けて引っぱってホックを取り外してください。

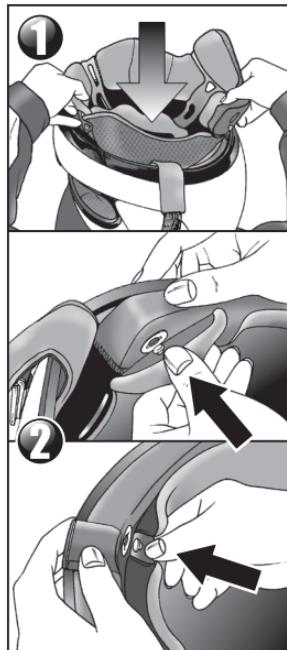
②システム内装をヘルメットから取り出します。



### 内装の付け方

①内装の前後の向きに注意してヘルメット内に入れます。

②システム内装のそれぞれのホック位置を合わせて押し込みます。取り付け完了後に内装の歪みを整えてください。



ホック及び内装枠の破損防止のため、全てのホックを外してから内装を取り出してください。また、乗用手袋をヘルメット内に入れると、手首部分の面ファスナーが内装に貼り付いたり、手袋のプロテクター やエアーダクト類がヘルメットの内部を傷める場合がありますのでご注意ください。

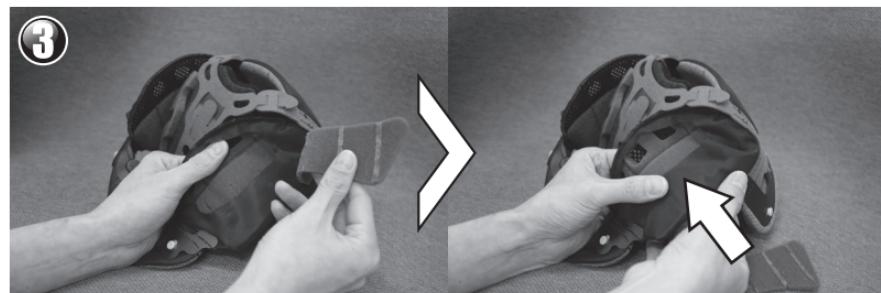
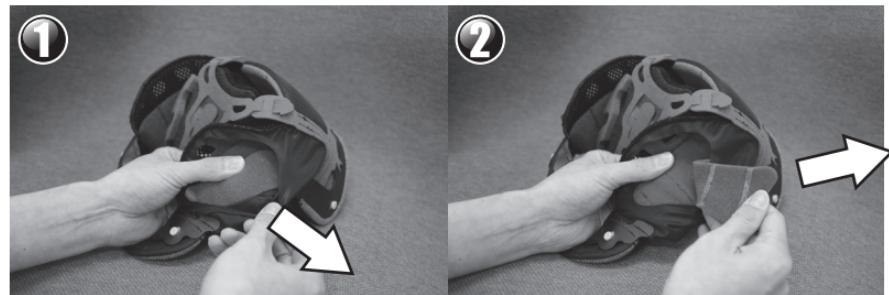
■システム内装のサイドパッド部分には、容易に剥がすことができる【調節パッド】が貼り付けられています。

この調節パッドを取り除くことで、システム内装のサイド部を片側で4mmほど薄くできます。

①システム内装のサイドパッド（側頭部にあたる部分）の外側のポケットをめくります。

②調節パッドは、パッドの本体側に粘着テープで部分止めされているので丁寧に剥がしてください。

③調節パッドを取り除き、ポケットを閉じてシステム内装の形を整えます。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくつ付けないようご注意ください。



調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようご注意ください。尚、剥がしたパッドは再利用できません。お住まいの地域の、軟質ポリウレタンフォーム製品の分別ルールにしたがって廃棄してください。



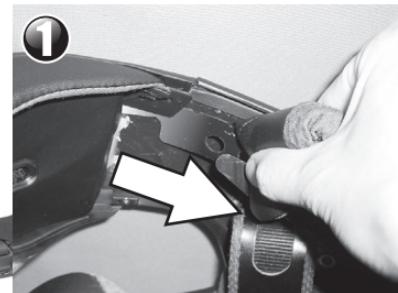
## P システムネックの着脱

### システムネックの取り外し

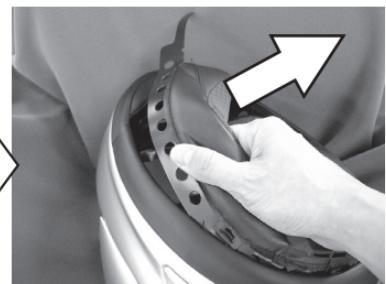
■予め、左右のシステムパッドを外しておきます。

①センターパッドの裏に差し込まれているシステムネックの【枠先端】を、左右とも抜き取ります。

枠先端がどのようにセンターパッドに差し込まれていたか、覚えておいてください。



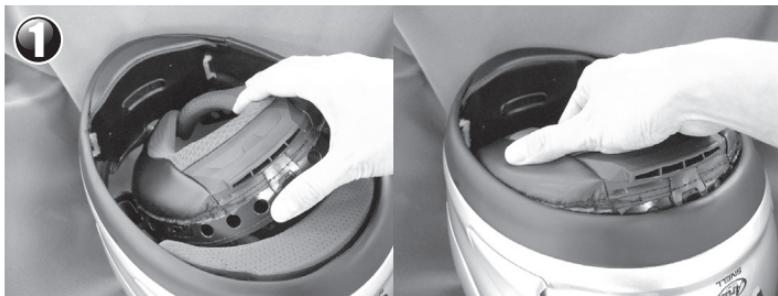
②システムネックの中央をしっかりと掴んで、エッジに沿って左または右に3~4cmほどスライドさせると、取り付けフックが解除されてシステムネックを引き抜くことができます。



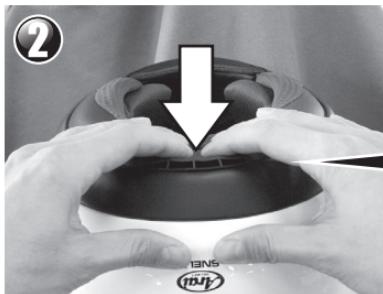
システムネックを外す際は、縫製のほつれ防止のためシステムネックを枠ごとしっかりと持ってください。また、ヘルメットを持ち歩く際にシステムネックを持つと、システムネックが外れてヘルメットが落下するおそれがあります。

## システムネックの取り付け

①システムネック両端をすばめ、ヘルメット内に一旦入れます。そして、ヘルメット側の隙間にシステムネックの枠を均等に差し込み、システムネックの左右のズレを修正しておきます。

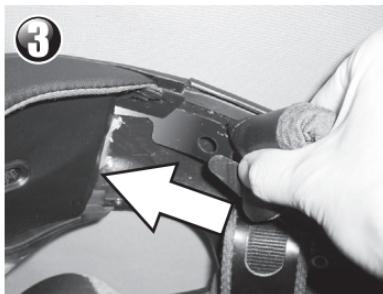


②次にシステムネック後部のフックの取り付けを行います。先に左右のフックを上から押し込んで取り付け、中央は写真②のように両手で摘むようにして取り付けます。



フックの位置

③システムネックの【枠先端】をセンターパッドの裏に差し込み、システムパッドを取り付ければ作業終了です。



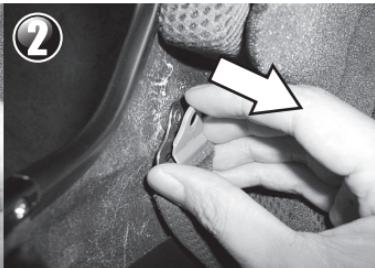
枠先端が正しく差し込まれていないと、  
ヘルメット内に突出して顔を傷付けるお  
それがあります。



## Q ストラップカバーの着脱

### ストラップカバーの取り外し

①あご紐基部の金属製アンカーにかぶさっている、ストラップカバーの取り付け具【カバーハンガー】をしっかり持ちます。



②カバーハンガーを上方からめくるようにして、金属製アンカーから取り外します。

③ストラップカバー全体をあご紐から抜き取ります。反対側のストラップカバーも同様に外してください。

ストラップカバーの大きさは、ヘルメットサイズによって異なりますので、パーティリストをご参照ください。



### ストラップカバーの取り付け準備

まず、ストラップカバーの左右表裏の確認を行います。ストラップカバーは合成皮革が縫い付けられている方を【裏】とします。



左側：合皮の部分が短い



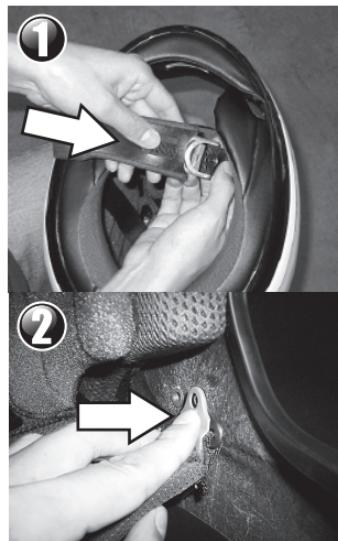
右側：合皮の部分が長い

## 左側ストラップカバーの取り付け

- ①カバーの裏（合皮側）を手前に向け、Dリング側のあご紐をカバーに差し込みます。
- ②カバーハンガーを、あご紐の金属製アンカーに重ね合わせて押し付けます。



カバーの途中に開いてい  
る穴に指を入れてDリング  
を送り出すと、楽に通すこ  
とができます。

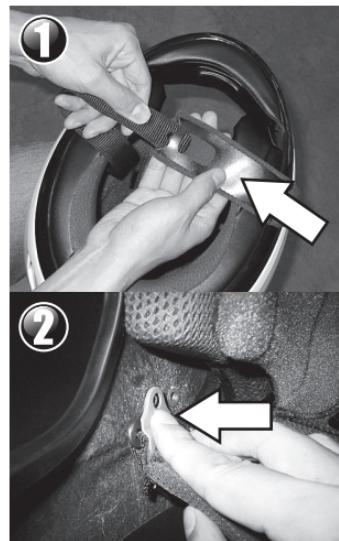


## 右側ストラップカバーの取り付け

- ①カバーの裏（合皮側）を手前に向け、長い方のあご紐をカバーに差し込みます。
- ②カバーハンガーを、あご紐の金属製アンカーに重ね合わせて押し付けます。



あご紐は、刻印の入った  
スナップの頭を上に向け  
てカバーに通します。



ストラップカバー未装着の状態でヘルメットを使用しないでください。また、ストラップカバーの取り付  
けが不十分だと、ヘルメットをかぶる際にストラップカバーが外れるおそれがあります。

## R ヘルメットのお手入れ

### パーティ類のお手入れ (中性タイプの台所用洗剤を推奨)

ホルダーやベンチレーションダクトなどのパーティ類は、中性洗剤を適量の水で薄め柔らかい布にふくませてパーティ表面の汚れを拭き取ってください。



お手入れにアルコールを含むクリーナー類やシンナー系の溶剤、ガソリンなどを使用すると、塗装面や素材が侵されますので絶対に使用しないでください。



### シールドのお手入れ (中性タイプの台所用洗剤を推奨)

シールド表面にオイルやワックス・ガソリンなどが付着すると、たとえ目に見える変化がなくとも素材が侵されてしまいますので、シールドの定期的なクリーニングをお勧めします。クリーニングは薄めた中性洗剤でシールド表面の油分などを洗い流し、流水で十分に濯いでから柔らかい布で水分を拭き取ります。



シールド素材は耐衝撃性に優れたものですが、アルコールを含むクリーナーやシンナー系溶剤、ガソリンなどが付着した場合や、車窓用の撥水剤などを使用した場合、素材が侵されシールドにヒビ割れが発生し、万一の衝撃時に破損するおそれがあります。



シールドに虫などが付着して硬くなってしまっている場合は、シールドを真水に浸けて柔らかくしてから、薄めた中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で拭き取ってください。尚、中性洗剤を薄めた液中にシールドを長時間漬け込むのは絶対にお止めください。



## ヘルメット本体の洗い方 (中性タイプの洗濯用洗剤を推奨)

ヘルメットを丸洗いする時はヘルメットからシールドや着脱式内装を取り外してヘルメット全体を中性洗剤を少量溶かした水に浸し、ヘルメット表面、あご紐、内装のメッシュを洗い、その後真水で十分に濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、日陰の風通しの良い場所にヘルメットを逆さまに吊して自然乾燥させてください。



ヘルメットを乾燥させる際、50°C以上加熱したりヘルメットを長時間日光にさらし続けると、ヘルメット内の衝撃吸収ライナが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し、衝撃吸収性が失われてしましますのでご注意ください。

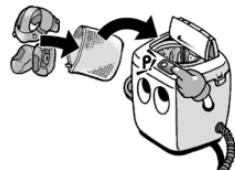


## 着脱式内装のお手入れ (中性タイプの洗濯用洗剤を推奨)

EPフルシステム内装（システム内装・システムパッドのカバー・ストラップカバー・システムネック）をヘルメットから取り外して手洗いを行いますが、システム内装やシステムネックは枠を折り曲げたり変形させないよう、やさしく洗ってください。そして、洗い終えたら水でよく濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。



内装を洗濯機で洗う際は、必ず【洗濯ネット】に入れ、ソフト・弱・手洗いなどの素材に負担をかけないモード選択を行なってください。また、衣類乾燥機や洗濯乾燥機による内装の乾燥につきましては、その乾燥温度が50°C以上に達する場合はご使用頂けませんのでご注意ください。



※乾燥温度については、衣類乾燥機や洗濯乾燥機に付属している取扱説明書をご確認ください。

## pHコントロール：抗菌消臭高機能生地について

pHコントロール：抗菌消臭高機能生地を使用した内装は、路上に直接ヘルメットを置いたり、内装生地よりも硬い物で強く擦ったりすると、ほつれや毛羽立ちが生じる場合がありますのでご注意ください。尚、内装にはつれや毛羽立ちが生じた際は、新しい内装をお買い求めください。

## R オプションパーツリスト

パーツ名		部品番号
VAS - V ポスト付シールド	クリア	011054
	ライトスモーク	011053
	スモーク	011055
VAS - Vティアオフシールド (クリア)		011065
VAS - V MVシールド	クリア	011057
	セミスモーク	011056
	スモーク	011058
VAS - V MVピンロック120 (クリア)		011079
VAS - V ダブルレンズシールド	クリア	011063
	セミスモーク	011064
VAS - Vホルダー	白	025428
	黒	025433

パーツ名	部品番号
RX -7 X レーシング・spoイラー	白
	黒
ICダクト3	白
	黒
VAS - Vシールドベース	021066
スーパーADシスネジセット	112511
XDディフレクター	082390

アライヘルメットではヘルメットやパーツ類のお客様への直接販売を行なっていません。お客様のお近くのオートバイ用品取扱店にてご注文及びご購入ください。オプションパーツの価格につきましては、アライ製品のカタログやアライヘルメットのホームページをご参照ください。尚、通信料はお客様のご負担となりますので、予めご了承ください。

※当ヘルメットに、ESチンカバーVは取り付けられませんのでご注意ください。



## 内装生地のコットン化について

ヘルメットの内装生地には化学繊維が使われています。しかし、天然素材以外は使用できないお客様のためにコットン（綿100%）内装の製作ご相談も、アライヘルメット品質管理課で受け付けています。

アライヘルメット品質管理課

☎ 048-645-3661

受付時間：午前9時～午後5時（土日、祝日を除く）

パーツ名		部品番号
RX-7X EPシステムパッド	15mm	055698
	20mm (L)	055699
	25mm (S / M / XL)	055700
	30mm (XS)	055701
RX-7X EPシステム内装	II-10mm (XS)	075682
	II-7mm (S)	075683
	III-10mm (M)	075686
	III-7mm (L)	075687
RX-7X FIM EPシステム内装 IV-7mm (XL)		075693
XD EPシステムネック	中 (XS / S)	075698
	大 (M / L)	075699
RX-7X EPシステムネック特大 (XL)		075707
RX-7X EPストラップカバー (大)		073617





## 株式会社アライヘルメット

〒330-0841 埼玉県さいたま市大宮区東町2-12 ☎048-641-3825

ヘルメットに関するご質問ご相談は品質管理課まで。

☎048-645-3661 受付時間：午前9時～午後5時（土曜・日曜、祝日を除く）